

# 安全データシート

作成：2007年10月04日

改訂：2023年07月03日

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ウィードコート硬化剤
整理番号	UGF23-B0149-1A
推奨用途及び使用上の制限	エラストマー用原料
会社名	ウレタン技研工業株式会社
住所	三重県四日市市天カ須賀新町1-23
連絡先	電話番号 059(365)-7125 FAX番号：059(365)-6265 緊急連絡先 会社住所、電話番号に同じ

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（吸入・ミスト）	区分4
皮膚腐食性／刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2A
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（気道刺激性）

上記で記載がない危険有害性は分類できない。

### GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

吸入すると有害

皮膚刺激

強い目刺激

吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

呼吸器への刺激のおそれ

安全対策

使用前に取扱説明書を手し全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

屋外又は換気のよい場所でだけ使用すること。

取扱い後は手を良く洗うこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

応急処置	<p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。</p> <p>皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。</p> <p>呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。</p>
保管	<p>換気の良い場所で保管すること。</p> <p>容器を密閉しておくこと。</p> <p>施錠して保管すること。</p>
廃棄	<p>内容物/容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。</p>

### 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名	ポリイソシアネート溶液

	含有量 (Wt%)	官報公示整理番号 (化審法)	CAS No.
変性ポリイソシアネート	30～35	(7)-873	79864-11-2
4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート	40～45	(4)-118	101-68-8
ジイソニルフラート	20～25	(3)-1307	28553-12-0

### 4. 応急措置

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させること。直ちに医師に連絡すること。</li> </ul>
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>多量の水と石鹸で洗うこと。</li> <li>皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。</li> </ul>
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</li> <li>眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。</li> </ul>
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>口を良くすすぐ、気分が悪い時は、医師に連絡すること。</li> <li>無理に吐かせないこと。</li> </ul>
予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候 状態 応急措置をする者の措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>吸入した場合：咳</li> <li>眼に入った場合：発赤</li> <li>適切な保護具（保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面）を着用すること。</li> <li>適切な換気を行うこと。</li> </ul>

### 5. 火災時の措置

消火剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂、噴霧上の水</li> </ul>
使ってはならない消火剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>棒状水</li> </ul>
特有の危険有害性	<ul style="list-style-type: none"> <li>火災によっては刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれ</li> </ul>
特定の消火方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険なく出来るときは、液体を除去し、周囲の可燃物を除去する。</li> <li>初期の火災には粉末、二酸化炭素、乾燥砂を用いる。棒状水の使用は</li> <li>火災を拡大し、危険な場合がある。消火は風上から行う。</li> <li>大規模火災のときは、泡を使用して空気を遮断すると有効である。</li> </ul>
消火を行う者の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>自給式呼吸器、保護衣服等の保護具を着用すること。</li> </ul>

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	<ul style="list-style-type: none"> <li>漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。</li> <li>漏出時の処理を行う際には、必ず保護手袋、保護眼鏡、自給式呼吸器等を着用する。</li> <li>屋内の場合は、処理が終わるまで十分に換気を行う。</li> </ul>
環境に対する注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水溝に流さない。流出した製品が河川等に排出され、環境への悪影響を起こさないように注意する。</li> </ul>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量漏洩時には、出来るだけ液体を空容器に回収する。この際着火源となるバキュームポンプを使用してはならない。</li> <li>回収後の少量残留分に対して、または少量漏洩時には中和剤で中和、或いは白土、おが屑に吸着させて回収し、アンモニア水、または水と反応させ固化させた後、焼却または埋め立て処分とする。</li> <li>こぼれた場所を十分に水洗する。但し汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。</li> </ul>
二次災害の防止策	<ul style="list-style-type: none"> <li>付近の着火源となるものを取り除くとともに消化剤を準備する。火花を発生しない防爆型の安全な機器及び用具を使用する。</li> </ul>

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険物取扱所で取り扱う。</li> </ul>
技術的対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業場の換気を十分に行う。屋内の取扱場所には、局所排気装置を設置する。</li> <li>静電気対策のために、装置、機器等の設置を確実にを行う。</li> <li>電気機器、換気装置、照明機器等は防爆型を用いる。</li> <li>飲み込んだり、吸入したり、眼、皮膚などに触れないように、取扱中は、適切な保護具（保護メガネ、ゴム手袋、マスク等）を着用し直接の接触を防ぐ。</li> <li>容器の取り扱い、転倒・落下に注意する。火気厳禁。</li> <li>本製品と反応する強酸化剤との接触は避ける。</li> </ul>
接触回避	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険物貯蔵所で密栓保管する。</li> </ul>
保管	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度開栓した容器は、窒素または乾燥空気（露点-30℃以下）で気相部を置換し密栓保管する。</li> <li>屋内貯蔵所は防火構造で十分換気できるようにする。また、床材は非吸収性の材料とする。保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、機器類はすべて接地する。</li> <li>火気厳禁・関係者以外立入禁止の標識を掲示する。</li> </ul>
安全な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>直射日光下および高温になる場所に放置しないこと。</li> <li>危険物対応の容器</li> </ul>
避けるべき保管条件	
安全な容器包装材料	

## 8. 暴露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
変性ポリソシアネート	設定されていない	設定されていない	設定されていない
4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート	設定されていない	0.05mg/m <sup>3</sup>	0.005ppm
ジイソニルフルート	設定されていない	設定されていない	設定されていない

暴露防止、設備対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り扱い作業場所には、局所排気装置を設置する。</li> <li>機器類は防爆構造とし、設備は静電除去対策を実施する。</li> <li>取り扱い設備は密閉構造とする。</li> <li>取扱場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する</li> </ul>
保護具	<ul style="list-style-type: none"> <li>呼吸器保護具 : 自給式呼吸器、有機ガス用防毒マスク</li> <li>手の保護具 : 耐油性保護手袋</li> <li>眼の保護具 : ゴーグル、保護眼鏡、防災面等</li> </ul>

・皮膚及び身体の保護具 : 耐油性保護衣服、耐油性保護長靴等

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	・液状
色	・淡黄色
臭い	・特異臭
融点・凝固点	・データなし
沸点、初留点及び沸点範囲	・データなし
可燃性	・データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	・データなし
引火点	・200℃以上（クリーブランド開放式）
自然発火点	・データなし
分解温度	・データなし
pH	・データなし
粘度	・80 mPa・s（25℃）
溶解度	・非水溶性 芳香族炭化水素類、エステル類、ケトン類に可溶。
n-オクタノール/水分配係数	・データなし
蒸気圧	・データなし
密度	・1.15（25℃）
相対ガス密度	・データなし
粒子特性	・データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	・通常取り扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性	・データなし
避けるべき条件	・炎、火花、加熱、高温、直射日光、静電放電など。
混触危険物質	・強酸、酸化剤。
危険有害分解生成物	・燃焼で一酸化炭素、NO <sub>x</sub> など。

## 11. 有害性情報

4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネートの略としてMDIを用いる

急性毒性	
急性毒性（経口）	・GHS分類基準により区分に該当しない。
急性毒性（吸入・ミスト）	・MDIは区分4のためGHS分類基準より本製品は区分4となる。
皮膚腐食性/刺激性	・MDIのEUでの区分は刺激性（R38）の結果から区分2となる。 GHSの分類基準より本製品は区分2となる。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	・MDIのいくつかの動物による調査では僅かな目の痛みを示し、人の目にいくらかの刺激を示した。EU区分は刺激性（R36）。 GHSの分類基準より本製品は区分2Aとなる。
呼吸器感作性	・MDIは呼吸器感作性があることは人と動物で実証されており、またEUの呼吸器感作性（R42）から区分1となる。 GHSの分類基準より本製品は区分1となる。
皮膚感作性	・MDIは皮膚感作性があることは人と動物で実証されており、またEUの呼吸器感作性（R43）から区分1となる。 GHSの分類基準より本製品は区分1となる。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	・MDIの動物試験で一時的な刺激性作用が報告されているが、MDIは低蒸気圧であり、この濃度では人への刺激性は殆ど起こらない。しかしMDIは推奨ばく露限界以上の濃度では刺激を起こす可能性あり区分3（気道刺激性）とした。 GHSの分類基準より本製品は区分3となる。

---

## 1 2. 環境影響情報

---

生態毒性	・水生環境有害性 短期（急性） データなし ・水生環境有害性 長期（慢性） データなし
残留性・分解性	・データなし
生体蓄積性	・データなし
土壤中の移動性	・データなし
オゾン層への有害性	・データなし

---

## 1 3. 廃棄上の注意

---

残余廃棄物	国/地方の規則に従って廃棄すること。 国/都道府県などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に依頼する。
汚染容器及び包装	国/地方の規則に従って廃棄すること。 国/都道府県などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に依頼する。

---

## 1 4. 輸送上の注意

---

国際規制	・ 海上輸送は I M D G 航空輸送は I C A O / I A T A の規制に従う
国内規制	
陸上輸送	・ 消防法に従った容器、積載方法により輸送する。
海上送	・ 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	・ 航空法に定められている運送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	・ 運送に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

---

## 1 5. 適用法令

---

消防法	・ 危険物第 4 類第 4 石油類危険等級 III
労働安全衛生法	
表示物質	・ 4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート
通知物質	・ 4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート
化学物質管理促進法	・ 4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート

---

## 1 6. その他情報

---

### 引用文献

- ・ポリウレタン原料について－安全取扱の手引（2002）
- ・日本産業衛生学会「許容濃度等の勧告」（2000）
- ・公表 G H S 分類結果 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)
- ・事業者向け G H S 分類ガイダンス（令和元年度改訂版 V e r 2. 0）
- ・ J I S Z 7 2 5 3 : 2019
- ・ J I S Z 7 2 5 2 : 2019

本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改定されることがあります。また SDS 中の注意事項は通常の取扱いを対象にしたものです。製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用してください。

本安全データシート（SDS）記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってくださる様、お願いいたします。